

平成27年（2015）9月末現在本市の人口は16,071人（男：7,477人、女：8,596人）です。うち、協和地区の人口は1,834人（男：865人、女：969人）です。また、少子高齢化も進み、小・中学生のいない集落も目立って来ています。

このような状況下、協和中学校は平成22年度（2010年度）をもって市内の4中学校とともに統合され、63年の歴史に幕を閉じました。

一方、協和小学校には51人の児童が在籍「平成27年（2015）4月1日現在」し、元気に勉学に励んでいます。平成24年度（2012年度）には協和小学校が特に学校防災において、学校の立地環境や過去の火山被害の状況を把握し、高い危機意識を持って児童の安全確保に努めていることが高く評価され、県の教育委員会から表彰されました。

## 7. 郷土芸能・郷土料理

以前、海潟地区には大太鼓踊り<sup>うでこおどり</sup>や疱瘡踊り<sup>ほそおど</sup>がありましたが、今ではほとんど知る人がなくなっています。又、中俣地区には川踊り<sup>かわおど</sup>（中俣上）がありますが、現在は休止状態にあります。協和地区公民館では郷土芸能の残されている地域への視察や、地元の経験者から話を聞くなど、復活・活性化に向けて取り組んでいます。

また川踊り（下）については公民館講座の一つに据えて、会員の確保とともに、協和小学校生徒への指導と併せた後継者の育成と存続に努力しています。

また“ろっぺ餅”<sup>ろっぺもち</sup>はもち米にサツマイモ、ふかした蓬の葉などを搗き入れた皮で黒砂糖のあんこを包んだもので、協和地区に伝わる郷土の食物です。

いま、その素朴な味を伝えようと、地区では新たな動きが始まっています。



太鼓（うでこ）踊りの道具



川踊り（下）



ろっぺ餅

## 8. 協和地区の伝説、むかし話

垂水のむかし話などをまとめた「垂城奇話」<sup>すいじょうきわ</sup>【天保8年（1837）伊集院<sup>いじゅういん</sup>